

\*5月25日の授業に、大学生として人にすすめたい本（附属図書館に所蔵されていること。ただし「読書レポート」で選んだ本は除く）を持ってくること！

附属図書館 OPAC <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/index.shtml> 参照

## 目次

1. はじめに
2. 大学生としての読書
3. 読書のきっかけ
4. ビブリオバトルをやってみよう！

◎この授業の課題

## 1. はじめに

「大学生 1日あたり 読書0分4割超 大学生協連、全国調査」(『朝日新聞』2014年4月21日夕刊) → 「第51回学生生活実態調査の概要報告」(2015年) <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 2016年5月19日閲覧

## 2. 大学生としての読書

### 「考える」ための読書へ

◎読書は大学での専門を身に付けるためには、不可欠：

⇒「クリティカル・リーディング」が求められる：テキストの内容・形式、表現について正確性や論理性を客観的に理解・評価していく読み方

◎読書によって、知識・見識を深めながら、思考力と想像力、批判力を培う：教科書や専門の文献はもとより、知識を広げ教養を高めるための本を読むことも大切

◎「未知を読む」読書＝「ベーター読み」（外山滋比古『読書の整理学』ちくま文庫）⇒単なる趣味・娯楽の読書から、「考える」ための読書へ

### 読書の工夫

◎ギアチェンジして読む！

- ・ 速読、通読、精読を使い分ける！
- ・ 小説やエッセイ⇒精読
- ・ 新書などの論説文⇒速読（目次、「はじめ」と「終わり」、見出しに注目）

- ・ 学術論文・レポート、実用書⇒リサーチ的読み方（テーマに関するところを読む。キーワードで読み取る）

◎インプット・アウトプットを連動させる：線を引く、書く、人に話す

### 3. 読書のきっかけ

- ・ 附属図書館での取り組み：  
「ライブラリーワークショップ」、「阿波ビブリオバトルサポーター」
- ・ 読書会：まちライブラリー・ビブリオラボとくしま、金曜の会（「徳島読書人が選ぶこだわりの31冊」ブックリスト作成プロジェクト）など
- ・ 読書啓発のための授業：「名著講読」「読書コミュニケーションへの誘い」（いずれも教養教育科目）

- ⇒ 読書のアウトプットの「場」として
- ⇒ 知的刺激を受ける「場」として
- ⇒ 読書を通じたコミュニケーションの「場」として

### 4. ビブリオバトルをやってみよう！

ビブリオバトル公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

### 参考文献

谷口忠大「ビブリオバトル—書評を媒介としたコミュニケーションの場の広がり」、『図書館雑誌』Vol. 105、No. 11、2011年

谷口忠大『ビブリオバトル～本を知り人を知る書評ゲーム』文春（新書）、2013年

『読書世論調査 2017年版』毎日新聞東京本社、2017年

外山滋比古『読みの整理学』、ちくま文庫、2009年

依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに』徳島新聞社、2010年